

## BIOS設定

マザーボードにはシステムの構成内容を変更したり、設定を行ったりするための設定プログラムが組み込まれています。コンピュータにすでにマザーボードが装着されている場合は、メーカーによって必要な設定がすでに行われているはずです。あなた自身でマザーボードを装着する場合や、システムの設定を変更したい場合、または“Run Setup”メッセージが表示された場合は、設定プログラムを起動して新しい情報を入力しなければなりません。

このマザーボードは、システムのROM設定情報を含むAward BIOSチップを使用しています。このBIOSチップは、CPUとその他ボード上の構成部品とのインターフェースの役割を担っています。この章では設定プログラムに含まれる情報と、お使いのPCシステムの構成に合わせた設定方法を説明します。

システムBIOSに書き込まれている設定プログラムはCMOS RAMに保存されています。この設定プログラムでマザーボードの構成に関する設定を調整できます。このプログラムはユーザがシステム構成やバックアップバッテリーを変更したり、システムが構成上のエラーを検出し、ユーザに設定プログラムを起動することを要求したときに実行されます。電源投入直後のRAMテスト時に、“Press <Delete> key to enter Setup”（設定プログラムを起動するにはDeleteキーを押してください）というメッセージが表示されます。Deleteキーを押すタイミングが少しでも遅れると、POST（自己診断テスト）が続行されて設定プログラムを起動できなくなってしまいます。この場合は<Ctrl>、<Alt>、<Delete>キーを同時に押すか、コンピュータのリセットボタンを押してシステムをリセットしてください。電源を一度落としてから再度投入することによってコンピュータを再起動する方法もありますが、上記の2つの方法でうまくリブートできなかった場合にのみこの方法を使うようにしてください。プログラム内では「矢印」キーで選択して、「Enter」キーで選択を確認してください。

## CMOS設定ユーティリティ Main CMOS Setup

設定プログラムを起動すると、次のようなオプションを持つCMOS設定ユーティリティが表示されます。

| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>CMOS SETUP UTILITY<br>AWARD SOFTWARE, INC. |   |
|---|---|
| STANDARD CMOS SETUP   | INTEGRATED PERIPHERALS                            |
| BIOS FEATURES SETUP   | SUPERVISOR PASSWORD                               |
| CHIPSET FEATURES SETUP  | USER PASSWORD                                     |
| POWER MANAGEMENT SETUP  | IDE HDD AUTO DETECTION                            |
| PNP/PCI CONFIGURATION   | SAVE & EXIT SETUP                                 |
| LOAD BIOS DEFAULTS  | EXIT WITHOUT SAVING                               |
| LOAD SETUP DEFAULTS   |   |
| Esc : Quit<br>F10 : Save & Exit Setup                                     | ↑ ↓ → ← : Select Item<br>(Shift)F2 : Change Color |

スクリーンの下にはこの画面のコントロールキーが表示されます。他の画面ではハイライトされている項目についての情報が表示されますので、この画面で表示される各キーとその機能を書き留めておいてください。

### Load Defaults

デフォルト値を読み込む場合、トラブルシューティングが目的の場合と、一般的な使用において最も安定した値に設定するのが目的場合があります。このレベルでデフォルトを選択すると、その他すべての設定も変更されます。

## 基本設定 Standard CMOS Setup

Standard CMOS設定画面が上図のように表示されます。それぞれの項目で1つ以上の設定ができます。システムメモリについてはBIOSが自動的にサイズを認識するので特に設定する必要はありません。「矢印」キーで項目をハイライト表示し、「PgUp」または「PgDn」キーで設定値を選択してください。ただし、ボード上のCMOSメモリに保管されている情報が何らかの理由によって失われたり、破壊されたり、あるいはハードウェアの構成内容を変更したりした場合は、設定値を変更する必要があります。ボード上のCMOSバッテリーが弱くなると、情報が失われたり壊れたりします。

|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|---|--|--|--|--|--|--------------------|--|--|--|
| ROM FCI/ISA BIOS (2A69JF09)                   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| STANDARD CMOS SETUP                           |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| AWARD SOFTWARE, INC.                          |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Date (mm:dd:yy) : Fri, Feb 20 1998            |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Time (hh:mm:ss) : 9 : 43 : 17                 |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| HARD DISKS                                    |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| TYPE SIZE CYLS HEAD PRECOMP LANDZ SECTOR MODE |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Primary Master : Auto 0 0 0 0 0 0 AUTO        |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Primary Slave : Auto 0 0 0 0 0 0 AUTO         |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Secondary Master : Auto 0 0 0 0 0 0 AUTO      |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Secondary Slave : Auto 0 0 0 0 0 0 AUTO       |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Drive A : 1.44M, 3.5 in.                      |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Drive B : None                                |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Floppy 3 Mode Support : Disabled              |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Video : EGA/VGA                               |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Halt On : All Errors                          |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Base Memory: 0K                               |  |  |  |  |  | PU/PD/+/- : Modify |  |  |  |
| Extended Memory: 0K                           |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Other Memory: 512K                            |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| Total Memory: 512K                            |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
|   |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| ESC : Quit ↑ ↓ → ← : Select Item              |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |
| F1 : Help (Shift)F2 : Change Color            |  |  |  |  |  |                    |  |  |  |

スクリーンの下にはこの画面のコントロールキーが表示されます。この画面で表示される各キーとその機能を書き留めておいてください。ユーザ設定が可能な項目は別な色で表示されます。選択した項目についての情報を見るには、<F1>キーを押してください。画面の右下に表示されるメモリは、読み取り専用で自動的に調整されます。

#### Date

日付を設定するには「Date」のパラメータをハイライトし、page up/page downまたは+/-キーを使って今日の日付に合わせます。日付のフォーマットは月、日、年です。それぞれ有効な数値は月: (1 から12), 日: (1 から31), 年: (2079まで)です。

#### Time

時間を設定するには「Time」のパラメータをハイライトし、page up/page downまたは+/-キーを使って現在の時間に合わせます。時間のフォーマットは時、分、秒です。それぞれ有効な数値は時: (00から23), 分: (00から59), 秒: (00から59)です。時間を変更しない場合は、<Enter>キーを2回押してください。

## Hard Disks

この項目はシステムに搭載されているSCSIタイプでないハードウェアデバイスの情報を記録します。オンボードのPCI IDEコネクタには、プライマリチャンネルとセカンダリチャンネルがありますので、最高4つのIDEハードディスクや他のIDEデバイスを接続できます。各チャンネルはそれぞれマスターとスレーブの2つのハードディスクに対応しています。

SCSIハードディスクはデバイスドライバによって稼動しますので、BIOSはこれらをサポートしません。したがって、SCSIハードディスクの情報をここで入力する必要はありません。システムにSCSIコントローラカードが装着されている場合は、それぞれの説明書をご参照の上SCSIドライバをインストールしてください。

IDEハードディスクドライブを設定する場合、

- 「Auto」に設定するとブート中に検出します。
- メインメニューで「IDE HDD AUTO DETECTION」を選択すると、ドライブの情報が自動的に読み取られます。
- 「User」に設定するとマニュアルで情報を入力できます。

ここではCYLS(シリンダーの数)、HEAD(ハードディスクドライブの読み出し及び書き込み)、PRECOMP(ハードディスクドライブが書き込むタイミングを変更するときのシリンダー数)、LANDZ(ハードディスクドライブヘッドが待避するシリンダー数の位置)、SECTOR(セクターの数)、MODEなどの情報を指定できます。

「SIZE」は指定した設定に基づいて自動的に調整されます。ドライブの仕様については、ハードディスクの説明書をご参照ください。

「MODE」はIDEハードディスクに対してのみ有効で、MFMドライブやESDIドライブの場合は無視されます。この項目には*Normal*、*Large*、*LBA*、*Auto*の選択肢があります。IDEハードディスクが528MB以下の場合は「Normal」、528MB以上でLogical Block Addressing (LBA) をサポートする場合は「LBA」を選択してください。LBAをサポートしない528MB以上のドライブの場合は「Large」を選択してください。Largeタイプのドライブはごくまれで、MS-DOSでしか使用できません。528MB以上のIDEドライブはほとんどLBAモードに対応しています。

### Auto Detection of Hard Disks on Bootup

Primary Master、Primary Slave、Secondary Master、Secondary Slaveに対して、TYPEとMODE項目から「Auto」を選択できます。この機能によってブート時にIDEドライブを自動的に検出できます。したがって、ハードディスクを変更した後、そのタイプを再設定する必要がありません。この機能に対応していない古いハードディスクを使用している場合は、通常の方法でハードディスクを設定する必要があります。

**注意：**IDEハードディスクを設定したら、新しいIDEハードディスクのパーティションを作成して(FDISK.EXEやDOSベースのユーティリティを使います)、データの読み取り・書き込みを行う前にフォーマットしなければなりません。プライマリーIDEハードディスクはパーティションを「active」に設定しておく必要があります(FDISKで実行できます)。

### Drive A / Drive B

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。それぞれのドライブに対して値を設定するには相当する項目をハイライトし、左右の方向キーでタイプを選択します。設定: *None* (Drive Bのデフォルト); *360KB, 5.25 in.*; *1.2MB, 5.25 in.*; *720KB, 3.5 in.*; *1.44MB, 3.5 in.* (Drive Aのデフォルト); *2.88MB, 3.5 in.*

### Floppy 3 Mode Support

この項目で3.5" (1.2MB) NEC 9801™ フロッピードライブのインストールが可能です。設定: *Disabled* (デフォルト); *Drive A*; *Drive B*; *Both*

### Video

使用するビデオカードのタイプを設定します。VGAまたはそれ以上の解像度をサポートするカードを使用する場合は「EGA/VGA」に設定してください。設定: *EGA/VGA* (デフォルト); *Mono* (HerculesまたはMDAの場合); *CGA 40*; *CGA 80*

### Halt On

POST(自己診断テスト)でエラーが検出された場合、どのような条件でシステムを停止するかを決定します。設定: *All Errors* (デフォルト); *No Errors*; *All, But Keyboard*; *All, But Diskette*; *All, But Disk/Key*

## Software Turbo Speed

Software Turbo Speed機能で、DOSのゲームスピードなどを調整することができます。フロントパネルのTurbo Speed Buttonを押す代わりに、「Alt」、「Ctrl」、「+」の3つのキーを同時に押すと、Turbo Speed機能を有効にし、「Alt」、「Ctrl」、「-」の3つのキーを同時に押すと、この機能は解除されます。

## 機能設定 BIOS Features Setup

BIOS Features Setupの画面ではシステムの性能を向上させたり、必要に応じてシステムの機能を有効にする設定を行います。いくつかの項目はマザーボードの設計上デフォルトのままにしておかなければなりません。

| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>BIOS FEATURES SETUP<br>AWARD SOFTWARE, INC. |   |
|--|---|
| Virus Warning : Disabled   | Video BIOS Shadow : Enabled             |
| Detect Boot Virus By Trend : Enabled                                       | C8000-CBFFF Shadow : Disabled           |
| CPU Internal Cache : Enabled   | CC000-CFFFF Shadow : Disabled           |
| External Cache : Enabled   | D0000-D3FFF Shadow : Disabled           |
| Quick Power On Self Test : Enabled   | D4000-D7FFF Shadow : Disabled           |
| Boot From LAN First : Enabled  | D8000-DBFFF Shadow : Disabled           |
| Boot Sequence(LS120/ZIP100): A,C,SCSI                                      | DC000-DFFFF Shadow : Disabled           |
| Swap Floppy Drive : Disabled   |   |
| Boot Up Floppy Seek : Enabled  |   |
| Boot Up NumLock Status : On  |   |
| Typematic Rate Setting : Disabled  |   |
| Typematic Rate (Chars/Sec) : 6   |   |
| Typematic Delay (Msec) : 250   |   |
| Security Option : Setup  |   |
| PS/2 mouse function control: Enabled                                       |   |
| OS Select For DRAM > 64MB : Non-OS2  |   |
|  | ESC : Quit           ↑↓←→ : Select Item |
|  | F1 : Help           PU/PD/+/- : Modify  |
|  | F5 : Old Values   (Shift)F2 : Color     |
|  | F6 : Load BIOS Defaults                 |
|  | F7 : Load Setup Defaults                |

スクリーンの下にはこの画面のコントロールキーが表示されます。この画面で表示される各キーとその機能を書き留めておいてください。選択した項目についての情報を見るには、<F1>キーを押してください。<F5>キーを押すと最後に設定した値が読み込まれ、<F6>キーを押すとBIOSのデフォルト値、<F7>キーを押すとSetupのデフォルト値が読み込まれます。

### Virus Warning

有効設定(Enabled)で、ハードディスクのブートセクターとパーティションをコンピュータウイルスから保護します。これらのエリアへの書き込みが試みられると、システムが停止して警告メッセージが表示されます。警告メッセージが表示されたら、そのまま操作を続行するか、ウイルスの侵入がないフロッピーディスクを使ってシステムをリブートし、調査を行ってください。新しいオペレーティングシステムとの競合を避けるためには、デフォルト設定のままにしておかれることをお勧めします。新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、この機能を無効(Disabled)にしてディスクへの書き込みエラーが発生しないようにする必要があります。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Detect Boot Virus By Trend

ブート時にブートデバイス(FDD/HDD)のブートセクタ内のウイルス検出機能を有効にします。

設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### CPU Internal Cache / External Cache

有効設定(Enabled)で、システムのパフォーマンスを向上させます。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Quick Power On Self Test

有効設定(Enabled)で、BIOSの拡張メモリテストを省略します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Boot From LAN First

LANを介してリモートサーバーからシステムをブートできるように設定します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Boot Sequence (LS120/ZIP100)

選択した順序でディスクドライブのオペレーティングシステムを優先的に起動することができます。設定: *A, C, SCSI* (デフォルト); *LS/ZIP, C; C, only; SCSI, C, A; SCSI, A, C; F, A, SCSI; E, A, SCSI; D, A, SCSI; CDROM, C, A; C, CDROM, A; C, A, SCSI*

### Swap Floppy Drive

有効設定(Enabled)で、ブート時にオペレーティングシステムがフロッピーディスクドライブにアクセスする順番を変更できます。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

#### Boot Up Floppy Seek

有効設定(Enabled)で、長めのシークコマンドを利用してBIOSがフロッピーディスクドライブのテストを実行します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

#### Boot Up NumLock Status

有効設定(On)で、システムの起動時に自動的にNum Lock機能が実行されます。設定: *On* (デフォルト); *Off*

#### Gate A20 Option

Protected Modeで「Fast」に設定すると反応を速くすることができます。設定: *Fast* (デフォルト), *Normal*

#### Typematic Rate Setting

「Enabled」でこのタイプマティックのリピートスピードの設定を変更できます。設定: *Disabled* (デフォルト), *Enabled*

#### Typematic Rate (Chars/Sec)

キーを押し続けたときに入力される文字のリピートスピードを変更します。設定: 6 (デフォルト); 8; 10; 12; 15; 20; 24; 30

#### Typematic Delay (Msec)

文字がリピート入力されるまでの間隔を設定します。設定: 250 (デフォルト); 500; 750; 1000

#### Security Option

システムのセキュリティレベルの設定をします。デフォルト値の「Setup」に設定すると、システムがブートした後Setupユーティリティを起動する場合にのみSupervisorパスワードの入力を求められます。「System」に設定すると、ブート時に毎回Userパスワードの入力を求められます。パスワードの種類を指定するには、メインスクリーンの「Supervisor Password」または「User Password」で行います。設定: *Setup* (デフォルト); *System*

#### PS/2 Mouse Function Control

有効設定(Enabled)で、PS/2マウスを使えるようにIRQ12を開放します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

#### OS Select For DRAM > 64MB

DRAMが64MB以上の場合、使用するオペレーティングシステム(OS)を指定できます。OSがIBM® OS/2™の場合は、「OS2」を選択してください。それ以外は、デ



イフォルト設定の「Non-OS2」にしてください。設定: *Non-OS2* (デフォルト); *OS2*

### Video BIOS Shadow

有効設定(Enabled)で、拡張ビデオカードのVideo ROMコードをシステムメモリにコピーし、処理速度を向上することができます。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### C8000-CBFFF to DC000-DFFFF Shadow

有効設定(Enabled)で拡張カードのBIOS ROMコードをシステムメモリにコピーし、処理速度を向上することができます。正しい選択をするためには、各拡張カードの持つBIOS ROMのメモリアドレスの範囲を確認する必要があります。ROMをシャドウすると640KBから1024KBまでの範囲で使用可能なメモリ領域が、シャドウされる分だけ縮小されます。設定: *Disabled* (default); *Enabled*

## ハードウェア設定 Chipset Features Setup

マザーボードに搭載されているチップセットの設定を行います。この画面で使用可能なコントロールキーと前画面で使用可能なキーは同じです。

| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>CHIPSET FEATURES SETUP<br>AWARD SOFTWARE, INC. |            |                            |                    |
|---|------------|----------------------------|--------------------|
| Auto Configuration  | : Enabled  | CPU Clock Frequency        | : 66 MHz           |
| DRAM Speed Selection  | : 60ns     | Spread Spectrum            | : Disabled         |
| MA Wait State   | : Slow     | Current System Temp.       | :                  |
| EDO RAS# To CAS# Delay  | : 3        | Current CPU Fan Speed      | :                  |
| EDO RAS# Precharge Time   | : 3        | Current Chassis Fan Speed: |                    |
| EDO DRAM Read Burst   | : x333     |                            |                    |
| EDO DRAM Write Burst  | : x222     | VCORE :                    | +3.3(V):           |
| DRAM Data Integrity Mode  | : Non-ECC  | +5.0(V):                   | +12 (V):           |
|   |            | -12 (V):-                  | -5.0(V):-          |
| System BIOS Cacheable   | : Enabled  |                            |                    |
| Video RAM Cacheable   | : Enabled  |                            |                    |
| 8 Bit I/O Recovery Time   | : 1        |                            |                    |
| 16 Bit I/O Recovery Time  | : 2        |                            |                    |
| Memory Hole At 15M-16M  | : Disabled |                            |                    |
| Delayed Transaction   | : Disabled |                            |                    |
| AGP Aperture Size (MB)  | : 64       |                            |                    |
|   |            | ESC : Quit                 | ↑↓←→ : Select Item |
| SDRAM CAS latency Time  | : 3        | F1 : Help                  | PU/PD/+/- : Modify |
|   |            | F5 : Old Values (Shift)    | F2 : Color         |
|   |            | F6 : Load BIOS Defaults    |                    |
|   |            | F7 : Load Setup Defaults   |                    |

### Auto Configuration

使用するDRAMのタイプを選択できます。上級の技術者以外はこの設定をデフォルトにしておくことを推奨します。設定: *Enabled* (デフォルト), *Disabled*

### DRAM Speed Selection

## VL-603マザーボード ユーザーズマニュアル

---

この機能は「Auto Configuration」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。使用するDRAMのタイプによってDRAMのタイミングを設定します。設定: *60ns* (デフォルト); *50ns*

### MA Wait State

この機能は「Auto Configuration」が「Disabled」に設定されている場合にのみ有効です。DRAMのメモリアドレスに対するウェイトステートを設定します。設定: *Slow* (デフォルト); *Fast*

### EDO RAS# To CAS# Delay

この機能は「Auto Configuration」が「Disabled」に設定されている場合にのみ有効です。CPUの周波数と使用するDRAMが2クロックか3クロックかによって、DRAM CAS#とCAS#間の待ち時間を設定できます。設定: *3* (デフォルト); *2*

### EDO RAS# Precharge Time

この機能は「Auto Configuration」が「Disabled」に設定されている場合にのみ有効です。DRAM RAS#プリチャージタイムを3クロックか4クロックのどちらかに設定します。設定: *3* (デフォルト); *4*

### EDO DRAM Read Burst

この機能は「Auto Configuration」が「Disabled」に設定されている場合にのみ有効です。CPUの周波数とDRAMのタイプによってDRAMリードバーストタイミングを設定します。設定: *x333* (デフォルト); *x222*

### EDO DRAM Write Burst

この機能は「Auto Configuration」が「Disabled」に設定されている場合にのみ有効です。CPUの周波数とDRAMのタイプによってDRAMライトバーストタイミングを設定します。設定: *x222* (default); *x333*

### DRAM Data Integrity Mode

ソフトウェアによって、DRAMインタフェースをECC(ECC generation and checking/correction)モードで操作するか、または非ECCモードによって操作するかを選択できます。設定: *Non-ECC* (デフォルト); *ECC* (オンボードチップがIntel 443LXで、DIMMがパリティチェックされている場合のデフォルト)

### System BIOS Cacheable

有効設定(Enabled)で、キャッシュコントローラーが動作しているときROM領域F000H-FFFFHはキャッシュ可能になります。設定: *Enabled* (デフォルト), *Disabled*

### Video RAM Cacheable

有効設定(Enabled)で、ビデオRAMをキャッシュ可能にしてシステムの性能を向上させます。設定: *Enabled* (デフォルト), *Disabled*

### 8 Bit I/O Recovery Time

8 bit I/Oコマンド実行時に必要な回復時間を設定します。設定: *1* (デフォルト); *2 to 7, NA, 8*

### 16 Bit I/O Recovery Time

16 bit I/Oコマンド実行時に必要な回復時間を設定します。設定: *2* (デフォルト); *3, NA, 4, 1*

### Memory Hole at 15M-16M

有効設定(Enabled)で、この設定を必要とする拡張カード用にシステムメモリの15MBから16MBの領域を確保します。拡張カードは16MB以上のメモリ領域にしかアクセスできません。設定: *Disabled* (デフォルト), *Enabled*

### Delayed Transaction

有効設定(Enabled)で、現在のPCIバスマスターに現在のPCIマスターサイクルをリトライさせ、新しいPCIバスマスターの要請を受け入れます。オリジナルのPCIバスマスターを再度受入れ、データをオリジナルのPCIバスマスターへ返すことによってシステムの性能を高めます。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### AGP Aperture Size (MB)

AGPに使用されるメインメモリのフレームサイズを設定します。設定: *64* (デフォルト); *128; 256; 4; 8; 16; 32*

### SDRAM CAS Latency Time

SDRAM DIMMのCAS Latencyが2の場合は「2」に、3の場合は「3」に設定してください。設定: *3* (デフォルト); *2*

### CPU Clock Frequency

CPUの外部クロックとPCIバスクロックの比率を表示します。この項目はユーザが設定することはできません。

### Spread Spectrum

Spread SpectrumをCenter SpreadタイプかDown Spreadタイプに設定します。設定: *Disabled* (デフォルト); *1.5% (DOWN)*

Current System Temp. / Current CPU Fan Speed / Current Chassis Fan Speed / VCore: +3.3 (V) / +5.0 (V): +12 (V) / -12 (V): -5.0 (V)

BIOSのデータを監視するための機能です。この項目はユーザが設定することはできません。

## 省電力機能設定 Power Management Setup

システムの省電力機能を使えるようにします。この機能はシステムの無作動状態が一定時間経過するとディスプレイをオフにして、ハードディスクドライブをシャットダウンします。

| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>POWER MANAGEMENT SETUP<br>AWARD SOFTWARE, INC. |                |                                    |
|---|----------------|------------------------------------|
| Power Management  | : Disabled     | ** Reload Global Timer Events **   |
| PM Control by APM   | : Yes          | IRQ[3-7,9-15],NMI : Enabled        |
| Video Off Method  | : DPMS         | Primary IDE 0 : Disabled           |
| Video Off After   | : Suspend      | Primary IDE 1 : Disabled           |
| MODEM Use IRQ   | : 3            | Secondary IDE 0 : Disabled         |
| Doze Mode   | : Disable      | Secondary IDE 1 : Disabled         |
| Standby Mode  | : Disable      | Floppy Disk : Disabled             |
| Suspend Mode  | : Disable      | Serial Port : Enabled              |
| HDD Power Down  | : Disable      | Parallel Port : Disabled           |
| Throttle Duty Cycle   | : 62.5%        |                                    |
| VGA Active Monitor  | : Disabled     |                                    |
| Soft-Off by PWR-BTTN  | : Delay 4 Sec. |                                    |
| CPUFAN Off In Suspend   | : Enabled      |                                    |
| IRQ 8 Break Suspend   | : Disabled     |                                    |
| Resume by Ring  | : Enabled      |                                    |
| Resume by LAN   | : Disabled     |                                    |
| Resume by Alarm   | : Disabled     |                                    |
|   |                | ESC : Quit      ↑↓←→ : Select Item |
|   |                | F1 : Help      PU/PD/+/- : Modify  |
|   |                | F5 : Old Values (Shift) F2 : Color |
|   |                | F6 : Load BIOS Defaults            |
|   |                | F7 : Load Setup Defaults           |

### Power Management

省電力機能の調整ができます。「Disabled」に設定すると、一般的な省電力機能の設定を無効にします。「User Defined」設定で、省電力機能のマニュアル設定ができます。「MIN Saving」は各設定時間を最小値に、「MAX Saving」は最大値に設定します。設定: *Disabled* (デフォルト); *User Defined*; *Min Saving*; *Max Saving*

### PM Control by APM

APM (Advanced Power Management)機能を利用しない場合は、「No」を選択してください。「Yes」の選択で、待機モード (Doze)、スタンバイモード (Standby)、サスペンドモード (Suspend) に移行する前に、APM機能実行まで待機したままの状態になります。APM機能に対応している場合は、すべてのタスクが終了した後にシステムが省電力モードに移行するよう管理します。設定: *Yes* (デフォルト); *No*

### Video Off Method

ディスプレイの省電力モードへの移行方法を設定します。「V/H SYNC+Blank」では、ビデオカードから発信される水平(H-Sync)、垂直(V-Sync)同期信号を落として、ディスプレイ表示をブランクにします。「DPMS Support」では、DPMS (Display Power Management Signaling function)規格のビデオカード自身が制御してディスプレイ表示をブランクにします。「Blank Screen」では、表示信号を落としてディスプレイ表示をブランクにします。グリーン機能に対応していないディスプレイモニタの場合は、後者を選択してください。この機能とスクリーンセーバソフトを合わせて使用することはできません。CRTモニタをシャットオフしてしまうと、このソフトウェアはディスプレイできなくなります。設定: *DPMS* (デフォルト); *Blank Screen*; *V/H Sync + Blank*

### Video Off After

ディスプレイモニタをオフにする省電力レベルを設定します。設定: *Suspend* (デフォルト); *Standby*; *Doze*; *NA*

### MODEM Use IRQ

モデムの指定するIRQ番号に合わせて、利用できるIRQを変更できます。設定: *3* (デフォルト); *4*; *5*; *7*; *9*; *10*; *11*; *NA*

### Doze Mode/Standby Mode/Suspend Mode

待機/スタンバイ/サスペンドモードに移行するまでの時間を設定します。「Max Saving」に設定すると、1分後にシステムが待機/スタンバイ/サスペンドモードに移行し、「Min Saving」に設定すると、1時間後に待機/スタンバイ/サスペンドモードに移行します。省電力機能を「User Defined」に設定した場合は、*1 Min*; *2 Min*; *4 Min*; *8 Min*; *12 Min*; *20 Min*; *30 Min*; *40 Min*; *1 Hour*から選択してください。デフォルト値は*Disabled*です。

### HDD Power Down

指定した時間が経過するとDEハードディスクドライブをシャットダウンします。「Max Saving」に設定すると、1分後にシステムが待機/スタンバイ/サスペンドモードに移行し、「Min Saving」に設定すると、15分後に待機/スタンバイ/サスペンドモードに移行します。省電力機能を「User Defined」に設定した場合は、省電力モードに移行する時間を1分から15分の間で設定してください。この機能はSCSIハードディスクには適用されません。設定: *Disabled* (デフォルト); *1 Min*; ... *15 Min*

### Throttle Duty Cycle

## VL-603マザーボード ユーザーズマニュアル

---

システムが待機モードに入ったとき、CPUクロックが稼動する速度を設定します。この設定は通常モードとパワーダウン時のクロック速度の割合で表示されます。設定: 62.5% (デフォルト), 75.0%, 12.5%, 25.0%, 37.5%, 50.0%

### VGA Active Monitor

「Disabled」に設定すると、ディスプレイモニタが稼動中でも(スクリーンセーバプログラムを起動中でも)システムが省電力モードに移行します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Soft-Off By PWR-BTTN

ATX電源を利用したときに有効になる設定です。「Delay 4 Sec.」の設定は、電源ボタンを押して4秒後にシステムをシャットダウンすることを意味します。「Instant-Off」の設定では、電源ボタンを押したら直ちにシステムをシャットダウンします。設定: *Delay 4 Sec.* (デフォルト); *Instant Off*

### CPU FAN Off In Suspend

有効設定(Enabled)で、システムがサスペンドモードに移行したときCPUファンを止めます。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### IRQ 8 Break Suspend

IRQ8(リアルタイムクロック)の監視によってシステムをサスペンドモードのままにしておくことができます。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Resume By Ring

ATX電源を設置したとき、この機能を利用できます。モデムを利用した電話によるリモートコントロールで、システムは電源オフの状態からオンになります。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Resume By LAN

ATX電源を設置したとき、この機能を利用できます。LANを介してネットワークコンピュータでシステムは電源オフの状態からオンになります。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Resume By Alarm

ATX電源が設置されている場合、有効設定(Enabled)でタイマー設定により電源オフ状態からオンになります。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Date (of Month) Alarm

「Resume by Alarm」を有効設定(Enabled)にすると、アラームが始動する日付の設定ができます。設定: 0 (デフォルト); 1 から 31

### Time (hh:mm:ss) Alarm

「Resume by Alarm」を有効設定(Enabled)にすると、アラームが始動する時間の設定ができます。設定: hh: 7 (デフォルト), 0 から 23; mm: 0 (デフォルト), 1 から 59; ss: 0 (デフォルト), 1 から 59

### IRQ [3-7, 9-15], NMI

有効設定(Enabled)で、IRQ3から7またはIRQ9から15で何らかのイベントが検出されたとき、スタンバイモードに移行するためのタイマーを再起動します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Primary IDE 0

有効設定(Enabled)で、プライマリー(マスター)IDEで何らかのイベントが検出されたとき、省電力モードへ移行するためのタイマーを再起動します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Primary IDE 1

有効設定(Enabled)で、プライマリー(スレーブ)IDEで何らかのイベントが検出されたとき、省電力モードへ移行するためのタイマーを再起動します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Secondary IDE 0

有効設定(Enabled)で、セカンダリー(マスター)IDEで何らかのイベントが検出されたとき、省電力モードへ移行するためのタイマーを再起動します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Secondary IDE 1

有効設定(Enabled)で、セカンダリー(スレーブ)IDEで何らかのイベントが検出されたとき、省電力モードへ移行するためのタイマーを再起動します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Floppy Disk

有効設定(Enabled)で、フロッピーディスクドライブのアイドル状態が検出されると、指定した時間が経過した後省電力モードへ移行します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### Serial Port

有効設定(Enabled)で、シリアルポートのアイドル状態が検出されると、指定した時間が経過した後省電力モードへ移行します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Parallel Port

有効設定(Enabled)で、パラレルポートのアイドル状態が検出されると、指定した時間が経過した後省電力モードへ移行します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

## プラグ&プレイ・PCI設定

### PNP and PCI Configuration Setup

この画面ではPCIバススロットを設定します。システム上のPCIバススロットはすべてINTA番号を使用しますので、PCIカードはすべてこの値に設定しなければなりません。

| RCM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>PNP/PCI CONFIGURATION<br>AWARD SOFTWARE, INC.   |   |
|--|---|
| PNP OS Installed : No<br>Resources Controlled By : Auto<br>Reset Configuration Data : Disabled<br>IRQ Sequence:10,11,5,7,4,3,12,9,15,14  | PCI IRQ Activate By : Level<br>Assign IRQ For VGA : Enabled |
| ESC : Quit                    ↑↓←→ : Select Item<br>F1 : Help                    PU/PD/+/- : Modify<br>F5 : Old Values            (Shift)F2 : Color<br>F6 : Load BIOS Defaults<br>F7 : Load Setup Defaults |   |

#### PNP OS Installed

Windows 95のようにOSがプラグ&プレイ機能に対応している場合は「Yes」に設定します。設定: *No* (デフォルト), *Yes*

#### Resources Controlled By

BIOSで全てのシステムリソースを自動設定させるには「Auto」に設定します。競合するリソースが見つかった場合は、「Manual」に設定してください。設定: *Auto* (デフォルト); *Manual*

#### Reset Configuration Data

有効設定(Enabled)で、現在のBIOS設定をクリアしデフォルト設定に戻します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

#### IRQ Sequence



PCI IRQのシーケンスを選択します。設定: 9, 10, 11, 5, 7, 4, 3, 12, 15, 14 (ディフォルト); 15, 11, 10, 12, 14, 5, 7, 3, 4, 9

IRQ-3; -4; -5; -7; -9; -10; -11; -12; -14; -15; DMA-0; -1; -3; -5; -6; -7  
Assigned to

「Resources Controlled By」を「Manual」に設定した場合、PCI/ISA PNPか Legacy ISAカードが使用する特定のIRQ番号かDMA番号だけが表示されます。設定: *PCI/ISA PNP* (IRQ-3およびIRQ-4以外のデフォルト); *Legacy ISA*

#### PCI IRQ Activated By

上級の技術者以外はこの設定をデフォルトにしておくことを推奨します。設定: *Level* (デフォルト); *Edge*

#### Assign IRQ for VGA

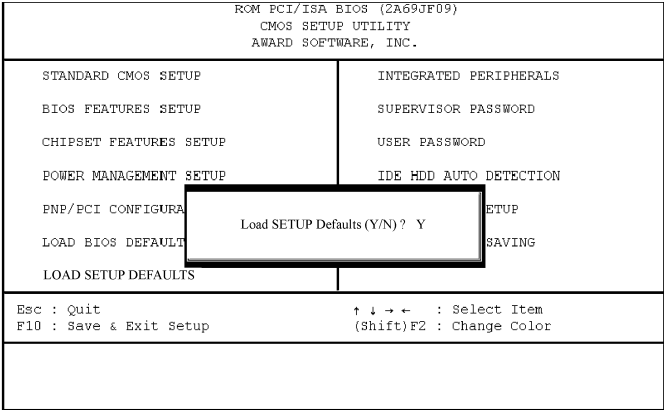
使用しているPCIのVGAカードがIRQを必要としない場合は「Disabled」を選択します。IRQが1つ開放され、他のリソースに割り当てられます。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### BIOSの標準設定実行 Load BIOS Defaults

BIOSのデフォルト(標準)設定は、必要最低限のシステムパフォーマンスを確立するために最適な各パラメーターの設定がされています。デフォルト値を読み込むには、メインスクリーンで「Load BIOS Defaults」をハイライトし<Enter>キーを押すと、確認メッセージが表示されます。デフォルト値を読み込む場合は<Y>キーを押した後<Enter>キーを押し、中止する場合は<N>キーを押した後<Enter>キーを押してください。ここでデフォルト値を読み込んだとしても、「Standard CMOS Setup」画面の項目には適用されません。

Load Setup Defaults

この項目を選択すると、システムが自動的にBIOSとチップセット機能を工場出荷時のデフォルト値の設定に戻します。マザーボードのトラブルシューティングには、「Load BIOS defaults」を利用してください。デフォルト値を読み込むには、メインスクリーンで「Load Setup Defaults」をハイライトし<Enter>キーを押すと、確認メッセージが表示されます。デフォルト値を読み込む場合は<Y>キーを押した後<Enter>キーを押し、中止する場合は<N>キーを押した後<Enter>キーを押してください。ここでデフォルト値を読み込んでも、「Standard CMOS Setup」画面の項目には適用されません。



デバイスの接続 Integrated Peripherals

## VL-603マザーボード ユーザーズマニュアル

| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>INTEGRATED PERIPHERALS<br>AWARD SOFTWARE, INC.  |  |
|--|--|
| IDE HDD Block Mode : Enabled<br>On-Chip Primary PCI IDE: Enabled<br>On-Chip Secondary PCI IDE: Enabled<br>IDE Primary Master PIO : Auto<br>IDE Primary Slave PIO : Auto<br>IDE Secondary Master PIO : Auto<br>IDE Secondary Slave PIO : Auto<br>IDE Primary Master UDMA : Auto<br>IDE Primary Slave UDMA : Auto<br>IDE Secondary Master UDMA: Auto<br>IDE Secondary Slave UDMA: Auto<br>HDD S.M.A.R.T. Capability: Disabled<br>USB Controller : Disabled | Onboard FDC Controller : Enabled<br>Onboard Serial Port 1 : 3F8/IRQ4<br>Onboard Serial Port 2 : 2F8/IRQ3<br>UR2 Mode : Standard<br><br>Onboard Parallel Port : 378/IRQ7<br>Parallel Port Mode : SPP<br><br>Onboard Audio Chip : Enabled<br><br>ESC : Quit ↑↓←→ : Select Item<br>F1 : Help F1/PD/+/- : Modify<br>F5 : Old Values (Shift)F2 : Color<br>F6 : Load BIOS Defaults<br>F7 : Load Setup Defaults |

### IDE HDD Block Mode

有効設定(Enabled)で、システムがブロックモードのハードディスクに読み出し及び書き込み要求を実行します。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### On-Chip Primary PCI IDE

有効設定(Enabled)でオンボードのプライマリ PCI IDEが利用できます。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### On-Chip Secondary PCI IDE

有効設定(Enabled)でオンボードのセカンダリ PCI IDEが利用できます。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### IDE Primary Master PIO

「On-Chip Primary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。PCIのプライマリIDEハードディスク(マスター)モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定: *Auto* (デフォルト); *Mode 0*; *Mode 1*; *Mode 2*; *Mode 3*; *Mode 4*

### IDE Primary Slave PIO

「On-Chip Primary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。PCIのプライマリIDEハードディスク(スレーブ)モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定: *Auto* (デフォルト); *Mode 0*; *Mode 1*; *Mode 2*; *Mode 3*; *Mode 4*

### IDE Secondary Master PIO

「On-Chip Secondary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。PCIのセカンダリIDEハードディスク(マスター)モードの自動またはマニ

ュアル設定を選択します。設定: *Auto* (デフォルト); *Mode 0*; *Mode 1*; *Mode 2*; *Mode 3*; *Mode 4*

#### IDE Secondary Slave PIO

「On-Chip Secondary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。PCIのセカンダリーIDEハードディスク(スレーブ)モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定: *Auto* (デフォルト); *Mode 0*; *Mode 1*; *Mode 2*; *Mode 3*; *Mode 4*

#### IDE Primary Master UDMA

「On-Chip Primary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。マザーボードとハードディスクがUltra DMAに対応している場合は、PCIプライマリ マスター ハードディスク モードの自動認識ができます。設定: *Auto* (デフォルト); *Disabled*

#### IDE Primary Slave UDMA

「On-Chip Primary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。マザーボードとハードディスクがUltra DMAに対応している場合は、PCIプライマリ スレーブ ハードディスク モードの自動認識ができます。設定: *Auto* (デフォルト); *Disabled*

#### IDE Secondary Master UDMA

「On-Chip Secondary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。マザーボードとハードディスクがUltra DMAに対応している場合は、PCIセカンダリー マスター ハードディスク モードの自動認識ができます。設定: *Auto* (デフォルト); *Disabled*

#### IDE Secondary Slave UDMA

「On-Chip Secondary PCI IDE」が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効です。マザーボードとハードディスクがUltra DMAに対応している場合は、PCIセカンダリー スレーブ ハードディスク モードの自動認識ができます。設定: *Auto* (デフォルト); *Disabled*

#### HDD S.M.A.R.T. Capability

ハードディスクドライブがS.M.A.R.T.機能に対応しているときは、「Enabled」に設定してください。設定: *Disabled* (デフォルト), *Enabled*

#### USB Controller

オンボードのUSB機能を使用しない場合は、無効(*Disabled*)に設定します。設定: *Disabled* (デフォルト); *Enabled*

### BIOS Support USB Keyboard

「USB Controller」が「Enabled」に設定されている場合のみ有効です。USBデバイスがBIOSによって自動的に認識されない場合、もしくはUSBデバイスに専用ドライバが付属されている場合は、「DOS」に設定してドライバのインストールをしてください。設定: *Setup* (デフォルト); *DOS*

### Onboard FDC Controller

有効設定(Enabled)で、フロッピーディスクドライブ(FDD)コントローラーが有効になります。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

### Onboard Serial Port 1

シリアルポート1がオンボードI/Oコントローラーを使用していれば、シリアルポートのパラメーターを調整できます。I/Oカードを装着する必要がある場合は、COM3とCOM4が必要になる場合があります。設定: *3F8/IRQ4* (デフォルト); *3E8/IRQ4*; *2F8/IRQ3*; *2E8/IRQ3*; *Disabled*

### Onboard Serial Port 2

シリアルポート2がオンボードI/Oコントローラーを使用していれば、シリアルポートのパラメーターを調整できます。I/Oカードを装着する必要があるときは、COM3とCOM4が必要になる場合があります。設定: *2F8/IRQ3* (デフォルト); *3E8/IRQ4*; *2E8/IRQ3*; *3F8/IRQ4*; *Disabled*

### UR2 Mode (Onboard Serial Port 2が「Disabled」の場合にのみ有効)

シリアルポート2がIRポートとして使用されている場合、IRモードの設定が可能です。COM2をIRとしてでなくシリアルポートとして利用する場合は、「Standard」に設定します。設定: *Standard* (デフォルト); *IrDA 1.0*; *ASK IR*; *MIR 0.57M*; *MIR 1.15M*; *FIR*.

### UR2 Duplex Select

「UR2 Mode」が「Standard」に設定されている場合にのみ有効です。赤外線機能のデータ転送方法を選択します。設定: *Half* (デフォルト); *Full*

### Onboard Parallel Port

パラレルポートがオンボードのI/Oコントローラーを利用している場合、既定値からのパラメーター値の選択が可能です。設定: *378/IRQ7* (デフォルト); *278/IRQ5*; *3BC/IRQ7*; *Disabled*

### Onboard Parallel Mode

「Onboard Parallel Port」が「Disabled」に設定されている場合にのみ有効です。最新規格の各プリンターに接続できます。設定: *SPP* (デフォルト); *EPP*; *ECP*; *ECP+EPP*

#### ECP Mode Use DMA

「Parallel Port Mode」が「ECP」または「ECP+EPP」に設定されている場合にのみ有効です。DMA(Direct Memory Access)チャンネルの設定が可能です。設定: 3 (デフォルト); 1

#### Onboard Audio Chip

アドオンオーディオカードを使用するとき、オンボードのオーディオチップを無効にします。設定: *Enabled* (デフォルト); *Disabled*

## パスワードの設定 Supervisor Password and User Password

パスワードの設定は、CMOS Setupユーティリティで行います。パスワードの入力を要求されるので、8文字以内のパスワードを入力し「Enter」キーを押してください。確認要求が表示されたらもう一度同じパスワードを入力し「Enter」キーで確定してください。パスワードを無効にするには、パスワードの入力を要求されたとき「Enter」キーを押してください。メッセージが表示され、パスワードは入力されません。

## IDEハードディスクの自動検出 IDE HDD Auto Detection

新しいハードディスクを設置すると、IDEハードディスクの自動検出機能によって自動的に認識されます。これは新しいハードディスクの自動設定に便利です。この機能によるIDEハードディスクのパラメーター設定は4つまで可能です。BIOSによって推奨された設定を利用する場合は「Y」を選択します。また、マニュアルによる各パラメーターの設定もできます。次のドライブへスキップする場合は、<N>キーを押します。<N>キーを押して項目をスキップすると、ドライブ文字の後に0が追加されます。

Enhanced IDE機能に対応していないIDEコントローラを使用する場合は、2つのIDEハードディスクドライブしかインストールできません。Drive EとDrive Fが使用できるようにするには、IDEコントローラがEnhanced IDE機能に対応していなければなりません。

正しく認識されているかどうかは、Standard CMOS Setup画面で確認できます。

LBAモードに対応しているハードディスクを自動検出する場合、パラメータボックスに3つのラインが表示されます。LBAモード対応ハードディスクには「LBA」を選択し、「Large」と「Normal」は選択しないでください。

自動検出機能は、いくつかのIDEハードディスクに対して1組のパラメータしか選択できません。IDEドライブによっては複数のパラメータセットを使用できるものもあります。

|   |
|---|
| <p><b>注意：</b>以前のシステムですでにハードディスクがフォーマットされていると、不正なパラメータが検出される場合があります。この場合はマニュアルで正しいパラメータを設定するか、データをハードディスクに</p> |
|---|



保存しておく必要がなければローレベルのフォーマットを行ってください。

リストされているパラメータがハードディスクのフォーマット時に使用したものと異なる場合は、このハードディスクは読み取り不可能となります。自動検出されたパラメータとハードディスクで使用されるべきパラメータが異なる場合は、このパラメータを使用しないでください。この場合は<N>キーを押して、「Standard CMOS Setup」画面で正しい設定を行ってください。

## 設定の保存終了 Save & Exit Setup

設定の変更をCMOSメモリへ保存します。メインスクリーンで「Save & Exit Setup」をハイライトして、<Enter>キーを押します。

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>CMOS SETUP UTILITY<br>AWARD SOFTWARE, INC. |                                |
| STANDARD CMOS SETUP   | INTEGRATED PERIPHERALS         |
| BIOS FEATURES SETUP   | SUPERVISOR PASSWORD            |
| CHIPSET FEATURES SETUP  | USER PASSWORD                  |
| POWER MANAGEMENT SETUP  | IDE HDD AUTO DETECTION         |
| PNP/PCI CONFIGURATION   | SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)? Y |
| LOAD BIOS DEFAULTS  | LOAD SETUP DEFAULTS            |
| Esc : Quit<br>F10 : Save & Exit Setup                                     |                                |
| ↑ ↓ → ← : Select Item<br>(Shift)F2 : Change Color                         |                                |

## 設定の未保存と終了 Exit Without Saving

変更を保存せずにSetupユーティリティを終了します。メインスクリーンで「Exit Without Saving」をハイライトして、<Enter>キーを押します。

## VL-603マザーボード ユーザーズマニュアル

---

|   |                        |
|---|------------------------|
| ROM PCI/ISA BIOS (2A69JF09)<br>CMOS SETUP UTILITY<br>AWARD SOFTWARE, INC. |                        |
| STANDARD CMOS SETUP   | INTEGRATED PERIPHERALS |
| BIOS FEATURES SETUP   | SUPERVISOR PASSWORD    |
| CHIPSET FEATURES SETUP  | USER PASSWORD          |
| POWER MANAGEMENT SETUP  | IDE HDD AUTO DETECTION |
| PNP/PCI CONFIGURATION   | ETUP                   |
| LOAD BIOS DEFAULTS  | SAVING                 |
| LOAD SETUP DEFAULTS   |                        |
| Esc : Quit<br>F10 : Save & Exit Setup                                     |                        |
| ↑ ↓ → ← : Select Item<br>(Shift)F2 : Change Color                         |                        |

Quit Without Saving (Y/N) ? Y